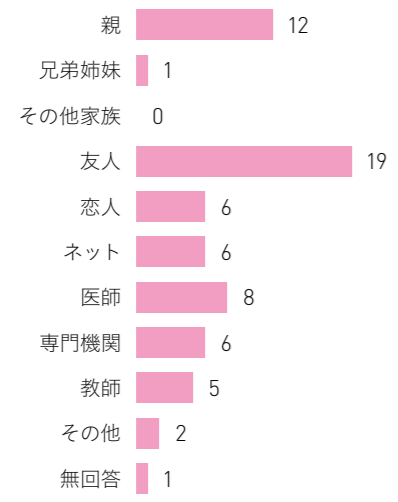


若年世代の
こころの居場所
アンケート調査

荒川区若年世代の自殺予防相談事業の一環として、これまで相談機関を利用しなかった若年層の実態を把握し、実際の相談に繋げていくための取り組みとして実施しました。日暮里駅周辺を中心とした荒川区内の路上のほか、日暮里駅前の「bond Project@あらかわ」相談室にて、アンケート用紙に直接記入する方法で行いました。
《※データは平成26年「荒川区における若年世代の自殺予防相談事業 報告書」より引用》

N = 39 (単位: 人/複数回答)

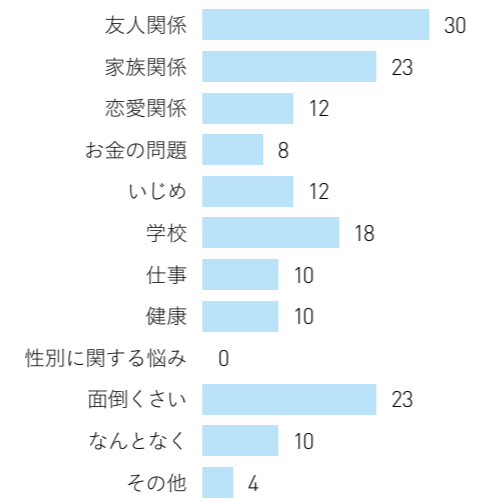
自殺念慮を相談した相手
(複数回答)



★自殺念慮を抱いたことのある対象者の半数以上は、自殺念慮を身近な人物に相談していた。

N = 62 (単位: 人/複数回答)

自殺念慮の原因
(複数回答)

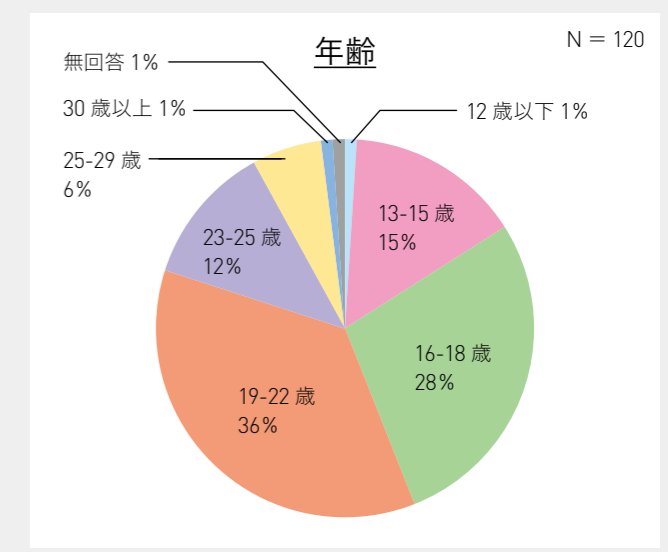
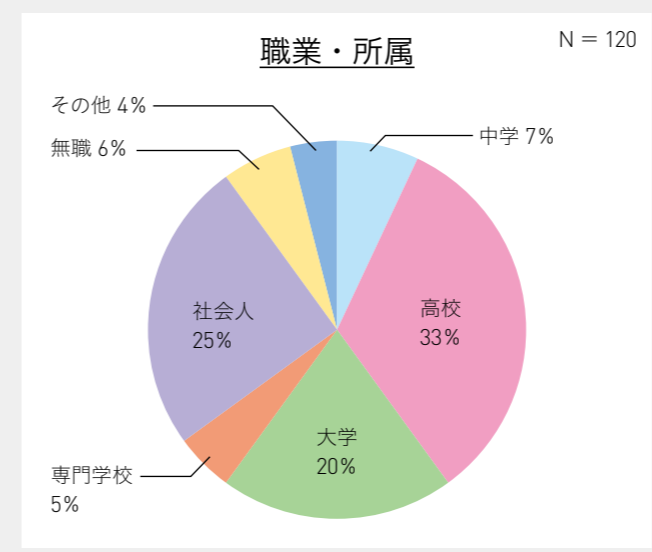


●その他 (自由記述)
消えた方がみんなのためになると思った。/なぜだかあまり分からなかった/年をとることへの恐れ/性被害にあいつづけていて。/勉強のことで精神的に追い詰められて/受験/中学受験

1 調査者数

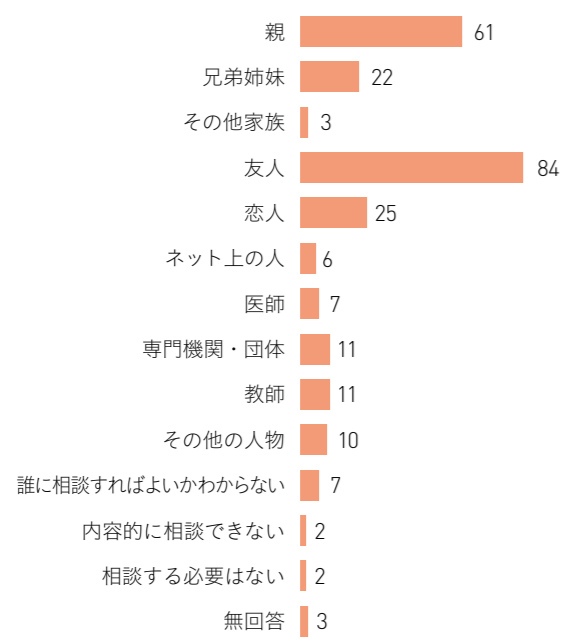
概ね 10 歳代～ 20 歳代の若年女性 120 名

2 対象者の属性



N = 120 (単位: 人/複数回答)

普段の悩みを相談する相手
(複数回答)



N = 23 (単位: 人/複数回答)

自殺念慮を相談しなかった理由
(複数回答)



●その他 (自由記述)
相談をするという考えがなかった/人に言うことじゃないとその時は思った/言語化できなかったから/母から何いってるのよあんた!とか言われそうだったから。/誰もが一度は抱く様な他愛のないものだったから。/最初、相談しなかった相談するという考えが浮かばなかった

3 調査結果

